

# 待合所外壁を改修

バス停「福住」

## 町並みに合う焼杉板で

関大・東雲高 福住まち協 「ふくたけ」 支援募る

福住地区の放置竹林から伐採した竹を用いて、同地区のバス待合所を伝統的な町並みに合わせてデザインし、改修を行っているプロジェクトチーム「ふくたけ」が、バス停「福住」の待合所の外壁のトタンを焼杉板に張り替えるべく、焼杉板の購入資金を集めようと、インターネットを通じて支援を募るクラウドファンディングに挑戦している。目標金額は20万円。「ぜひ皆さんのご支援を」と協力を求めている。30日まで。

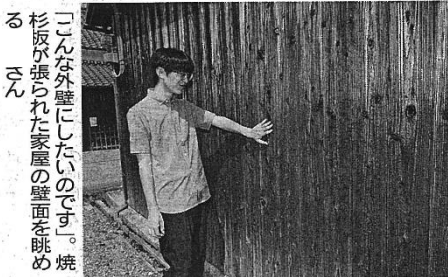
ふくたけは、関西大学

住環境デザイン研究室、福住待合所の外壁は白漆喰で、同地区のトタン製で、同研究

地区の町並みになじんでいない印象と指摘。そこで外壁全面を同地区の伝統的な住居によく見られる焼杉板を用いて改修するに決めた。福住待合所（高さ2.3m、奥行1.5m、幅9m）は2017年に一度改修しているが、さらに手を加えていくと、内



クラウドファンディングに挑戦している「ふくたけ」メンバーで関西大住環境デザイン研究室のさん、さん、さん（左から）＝丹波篠山市福住で



「こんな外壁にしたいのです。焼杉板が張られた家屋の壁面を眺めるさん

壁側面やベンチの座面に、割った竹を取り付けたほか、日焼けで劣化した背もたれのクッションカバーを、同地区の染織家の指導のもと、

2023年9月7日  
丹波新聞

帆布をベンガラで赤茶色に染めた物に新調した。クラウドファンディングの返礼品として、ベンガラ染めのコースターと手ぬぐい、福住バス待合所の完成予想図を描いたポストカード、看板に寄付者の銘を刻む特典を用意している。

8月28日に福住待合所の状況確認に訪れていた同研究室のメンバーで、同大環境都市工学部建築学科の大学院1年生、さん（23）と、さん（22）、2年生

のさん（23）は、「バス停福住待合所が地域の人や観光で訪れた人らに愛され、『福住の顔』となるよう仕上げていきたい」と意気込んでいる。

同地区のバス待合所を竹材で改修する取り組みは16年から始まり、「福住」「原山口」「西野々」の順に実施してきた。

クラウドファンディングの詳細は下のQRコードから。

